

学生相談・ケアの点検と深化 ――

新型コロナ禍のメンタルヘルス支援の実際

～ “キャンパスライフ”の喪失／多様な個／スマホアプリの開発・活用 ～

【9月1日（水）開催】

開催にあたって

昨年来続く新型コロナウイルス禍は、「第5波」の様相を呈し、終息が見通せない状況がなお続いております。長引く“緊急事態”下、特に若年層での感染の急拡大状況における大学経営での奮戦と精励、誠にお疲れ様であります。

このウイルス禍のなかで、学生にとっては、キャンパスライフの喪失による不安、鬱、精神不調が増大しております。特に、一年生にとっては、自宅待機のまま、一人暮らしも、寮生活も叶わず、“大学生活への夢や期待”を失うこととなり、不幸ともいえるスタートとなってしまいました。

青年期における“大学コミュニティ”は、多様な出会いと多彩な活動を可能とする“空間・場”であることが希求されていたはずなのに……。

キャンパス閉鎖と全面オンライン授業が解除されても、新型コロナウイルス禍での新たな生活ルールの下、マスクをつけ、教室や図書館では席を空けて座り、食堂では群れず喋らず。サークル活動も一定の制限を受け、アルバイトは中断、留学も中止。就活・面談もオンライン、内定企業からの採用中止。家計の急変による学費・生活費不足。

また、感染やその疑いによる差別や中傷、ワクチン接種への不安、等々。様々な“悩み”と“困難”を抱える学生たちのメンタルヘルス支援が急務となっております。

学年による状況の差異や個々人に現出する諸相を的確に捉え、必要となる相談と支援を実施するために、各大学においては、内外の人財と智恵を結集し、鋭意、取り組んでおられることと拝します。

さて、本セミナーでは「学生のメンタルヘルス支援」をテーマに4名の講師をお迎えし、開催いたします。

成蹊大学の岩田 淳子氏からは、新型コロナウイルス禍における学生相談の諸相について解説いただくとともに、日本学生相談学会が昨年9月に公表した『遠隔相談に関するガイドライン』、そして、成蹊大学における学生相談の取り組みと実際について、基調となる講義を賜われます。

日本学生支援機構の掛川 千之氏からは、現在行なっている、新型コロナウイルスの影響に伴う家計急変や休学者への対応、貸与期間の延長や申請期間の柔軟化、緊急給付金の創設といった、奨学金事業における施策をご講義賜われます。

九州大学の梶谷 康介氏からは、大学生向けに開発したスマートフォン向けメンタルヘルスアプリ「Q-Mental APP」について、開発の背景や社会実装、効果の検証、さらに、九州大学だけではなく、他の大学でも可能な点等について、ご講義を賜われます。

中央大学の山ノ井 和哉氏からは、首都圏大規模大学における、学生支援の基本指針に基づく、学修・学生生活・健康管理・就職活動といった、様々な場面における学内関連部署との連携による支援の実際、今後に向けた課題などをご講義賜われます。